

題材名・単元名	学部	授業名（主たる教科領域）	授業者
ゆきだるまをつくろう	小	グループ学習 低学年たんぽぽ （図画工作）	
<p><ねらい></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体をリラックスさせてふれあい遊びを受け入れたり、教師との関わりを楽しんだりする。（知識・技能） ・自分なりの方法で、わたの形を変化させる。（思考・判断・表現） ・自ら素材に関わろうとする。（主体的に取り組む態度） ・呼名や絵本、つくるの場面でしたい気持ちを表現し、進んで取り組もうとする。（主体的に取り組む態度） 			
学習内容	学習活動	指導上の留意点・準備物	
<p>1 はじまりの歌 2 あいさつ 3 呼名 4 ふれあい遊び 「ふんわりゆきさん」</p> <p>5 パネルシアター 『おんなじ おんなじ ももんちゃん』</p> <p>6 さわってつくろう</p> <p>7 あいさつ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・椅子に座って、教師とのふれあい遊びを楽しむ。 ・触られていることを意識して構えたり、触られている身体部位を意識したりする。 ・教師と視線を合わせ、笑顔で楽しさを共有する。 ・絵本の読み聞かせを見聞きする。 ・ゆきだるまのパーツを貼り付ける。（帽子） ・ゆきだるまをつくる動きを、「よいしょよいしょ」に合わせて、バランスボールを押す。 ・見本を見て、活動方法を知る。 ・袋の中の綿を引っ張り出して触る。（引っ張る、握る、握って離す、押すなど） ・綿の感触や変化に気づいたり、面白さを感じたりしながら気持ちを高め、もっとやってみようとする。 ・綿を袋に入れたり、貼ったり、教師や友達と一緒に活動することを楽しもうとする。 ・作品を鑑賞する。（みんなで大きい袋に綿を入れ、大きい雪だるまを作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌のはじめに、どの部位を触れるか意識できるように伝える・ ・心地よいと感じられるような力加減でなでたり、タッピングしたりする。 ☆歌詞カード ・繰り返しの言葉にアクセントをつけたり、パネルを動かしたりして、注目させたり、次の活動への期待感を高めさせる。 ☆パネルシアター（パネル（黒）、模型、バランスボール、赤ニット帽） ・絵本の読み聞かせの流れの最後に見本を登場させ、絵本の世界観を途切れさせずに活動に移行できるようにする。 ・綿に触ることにたっぶり取り組む。 ☆綿、ポリ袋、バランスボール 	
<p><内容（工夫点など）></p>			

季節に合わせて「雪」をテーマに感触あそびを設定しました。綿を雪に見立てて、絵本から展開していき、雪を転がす所は「よいしょよいしょ」の言葉かけを聞いて、児童は手を前後に動かしたり、教師と一緒にやってみたりして、回数を重ねるごとにできるようにしました。雪だるまに赤色の帽子(パーツ)を付ける所は、最初目印などはなかったのですが、パーツと同じ台紙を貼ることによって児童もよく注目し、手を離せるようになったり、貼って動かせるようになったりしていきました。つくる以外に遊び的な内容になりますが、かごを上から吊してそこにひもをつけて、そのひもを引っ張ると綿が落ちてくるという活動もしました。児童は持ち手を握ることや上から落ちてくる綿に注目する様子がみられ、楽しんでいました。箱に袋をつけて、そこに綿を詰めていき、雪だるまを作る活動は綿を入れるという活動が繰り返し行うことによって児童の積み重ねもできていきました。

<良かった点・改善点(児童生徒の反応を含め)>

少し活動内容が多かったかなと感じましたが、児童はどの活動にも一生懸命参加してくれました。1年生も教師や友達に慣れていき、教室にいたることが多くなりました。そうしたことでできる活動も増えていき、教師と一緒に取り組むことができました。児童それぞれの方法で表現してくれたり、一つ一つの活動での成長がみられました。目が合ったり、ハイタッチしてくれたり、ぎゅっと抱きつきに来てくれたり、教師との関わりもだんだん増えていきました。そして、たんぼぼグループでの友達同士の間わりがみられ、友達を誘うために肩をトントンと叩いたり、優しく触れたりする場面もありました。